第18回沖縄県医師会新研修医のための シンポジウム・歓迎レセプション

理事　鈴木　幹男

令和8年4月3日（金）、ロワジールホテル那覇において、「第18回沖縄県医師会新研修医のためのシンポジウム・歓迎レセプション」が開催されました。県内各臨床研修病院の新研修医をはじめ、病院長、指導医、関係者など多数のご参加をいただき、会場は春らしい熱気に包まれておりました。

今年は128名の新研修医の先生方にご参加いただき、研修開始を目前に控えながらも、沖縄の医療へ溶け込もうとする意識の高さがうかがわれました。開会にあたり、田名毅沖縄県医師会長より、新研修医の先生方へ向けた温かい歓迎のご挨拶がありました。続いて、玉城康裕知事の来賓挨拶を宮城嗣吉副知事が代読されましたが、沖縄県として若い医師を支えていきたいという力強いメッセージが送られ、新研修医の先生方も緊張した表情の中に、少し安心したご様子を見せておられたように感じました。

オリエンテーションでは、日本医師会副会長の角田徹先生による「日本医師会について」、さらに仲村尚司理事による「沖縄県医師会ガイド2026」の講演が行われました。医師会という存在は、研修医の先生方にとっては、まだ少し“遠い存在”に感じられるかもしれません。しかし、勤務環境、地域医療、医師偏在、働き方改革など、日々の診療や将来のキャリアに直結する課題に向き合っている組織であることを知っていただく、よい機会になったのではないかと思います。日本医師会への仮入会者数も96名に達するなど、医師会活動への関心の高まりも感じられました。

その後のシンポジウムでは、比嘉大先生（沖縄協同病院）、知念春佳先生（琉球大学病院）、村下太一先生（沖縄県立中部病院）から、医師として働く喜びや苦労、悩みへの向き合い方、そしてその乗り越え方など、貴重な経験談とアドバイスが披露されました。特に、初期研修で大切なこと、失敗から学んだこと、働き方、さらには「意外となんとかなる」という、医学教育において非常に重要な精神論まで、実体験に

基づいたお話が続きました。

それぞれの発表を聞く新研修医の先生方の表情は真剣そのもので、ときに頷き、ときに笑いも起こり、終始和やかな雰囲気で進行しておりました。また、聴講していた指導医や病院管理者の方々にとっても、若い世代の考え方や価値観に触れる貴重な機会になったのではないかと思います。

シンポジウム終了後は、涌波淳子常任理事のご司会により歓迎レセプションが始まりました。

歓迎レセプションでは、県内3研修群を代表して徳田安春先生より、先生ご自身の研修時代にお世話になった懐かしい諸先生方のご紹介を交えたご挨拶をいただき、その後、梅村武寛先生の乾杯で会が始まりました。乾杯直後は比較的行儀よく歓談されていた新研修医の先生方でしたが、20分も経つ頃には、あちらこちらで病院紹介、専門相談、連絡先交換が始まり、会場は大変な活気に包まれておりました。途中から司会の声が届きにくくなるのも、歓迎レセプションならではの“恒例行事”かもしれません。

懇親会の途中では、各病院群の新研修医や指導医の先生方から一言ずつご挨拶をいただきました。落ち着いた雰囲気の病院群もあれば、元気いっぱいの病院群もあり、それぞれのカラーが自然とにじみ出ていて、大変興味深く拝聴いたしました。

最後に、研修医代表として梶原花先生（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター）よりご挨拶をいただきました。初々しさの中にも、これから沖縄の医療を担っていくという力強い決意が感じられる素晴らしいご挨拶であり、会場全体が温かな拍手に包まれながら閉会となりました。

医師としての第一歩を踏み出した新研修医の先生方は、これから多くの壁に直面されることと思います。しかし同時に、多くの仲間や指導医との出会いにも恵まれるはずです。本シンポジウムと歓迎レセプションが、その長い医師人生の中で、「沖縄で研修してよかった」と思える原点の一つとなれば幸いです。

新研修医の先生方の今後ますますのご活躍とご健勝を心より祈念申し上げます。